

文化が活きる京都の推進に関する条例に基づく

基本的な指針

(中間案)

令和7年3月

京 都 府

目次

1	策定の趣旨	2
2	指針の位置付け	2
3	文化を取り巻く状況	2
4	課題	3
5	めざす姿	4
6	京都の文化の基軸（京都の強み）	4
7	推進体制	7
8	プロジェクト	7
9	数値目標	9

1 策定の趣旨

令和5年3月、明治以来初となる国の省庁移転として、文化庁が京都に移転しました。文化庁移転の意義は、東京一極集中の是正だけではなく、日本各地の多様な文化の掘り起こしや磨き上げを行うなど、国と地方が連携した新たな文化政策を総合的に推進することであり、日本の文化政策の新たな潮流を生み出し、地方創生につなげることをめざすものです。

折しも、新しい技術が生まれ、近未来の暮らしを感じられる万国博覧会が関西で開催される本年、京都府は、文化庁や京都市をはじめとする市町村、文化・経済団体等の関係団体とともに、京都から新たな文化政策の潮流を生み出し、京都はもとより日本の発展に寄与するべく、文化を活用した地方創生の芽をここ京都で育てたいと考えます。

その具体的な施策の基本的な指針として、文化が活きる京都の推進に関する条例（令和6年京都府条例第31号）に基づく基本的な指針（以下、「本指針」という。）を策定します。

2 指針の位置付け

本指針は、文化芸術基本法（平成13年法律第148号）第7条の2第1項の規定による文化芸術の推進に関する事項のほか、歴史・風土の中で培われた生活様式や技術、価値観、言葉等の京都各地の独自の文化に関する事項に係る施策の指針として定めます。

また、文化を取り巻く状況が大きく変化した場合は、必要に応じ本指針を見直します。

3 文化を取り巻く状況

(1) 文化庁の京都移転の実現

文化庁の京都移転を機に、アート市場の拡大や文化財の活用等による文化と経済の好循環の創出や、祭りや食文化などの生活に根差した文化の振興、博物館などミュージアムの機能強化や地域との連携強化等、新たな文化政策の展開が期待されています。

(2) 大阪・関西万博等の世界的イベントの開催

2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）の開催や2027年ワールド・マスターズ・ゲームズ関西の開催を、府内各地の活性化や経済成長につなげる絶好の機会と捉え、最大の効果が得られるよう京都の文化を世界に発信するとともに、京都府に訪れる多くの観光客を府内各地に誘客することが期待されています。

(3) 情報通信技術の急速な進展

5G通信環境の普及による超高速大容量通信が可能になるとともに、NFTや生成AI技術の普及など、情報通信技術は急速に進化しており、最新の技術を活用した新たな文化の創造や、文化財や職人の技術の記録保存などへの活用が期待されています。

(4) 過疎化、高齢化の進行等により地域で文化芸術活動を担う人材が減少

南北に広がる京都府には、各地の異なる気候風土に育まれた魅力的な祭りや食、芸能などの地域文化が育まれています。しかし、こうした地域文化の担い手は、過疎化や高齢化の進行により減少傾向にあり、地域文化の継承に向けた継続的な取組が期待されています。

(5) 世界規模の感染症の拡大

令和元年度に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界規模で人流が抑制されたことから、文化芸術活動は大きく低迷しました。その一方で、オンライン配信などは感染拡大が収束した後でも利用され続けるなど、新たな文化芸術の鑑賞の形が生まれており、今後はこうした技術も活用し、より多くの府民が気軽に文化に親しむ機会の創出が期待されています。

4 課題

(1) 京都への誇りと愛着の醸成

先人から受け継いできた京都の文化を将来に継承していくためには、京都の文化の魅力に触れ、誇りと愛着を持つことが必要であり、京都の文化の魅力に触れる機会や伝統を守り伝える施策が求められています。

(2) 京都経済の持続的な成長

持続的な経済成長を実現するためには、イノベーションを生む土壌を整え、生産性を持続的に上昇させることが必要であり、伝統と革新を繰り返してきた京都の進取の気質を活かした、新たな価値を創造する施策が求められています。

(3) 豊かな人間性の涵養

府民が心豊かに暮らせるあたたかな京都を実現するためには、人と社会とのつながりを築き、社会全体で人を見守り育てることが必要であり、文化に親しむことで育まれる豊かな人間性や、地域のお祭りなどを通して形成されるコミュニティなど、文化が暮らしの基盤として身近に感じられる社会の実現に向けた施策が求められています。

(4) 地域の強みや魅力を活かした活性化

人口減少により地域の過疎化が一層進み、コミュニティの形成や地域文化の継承が危ぶまれる中、都市部からの移住・定住の促進や、地域と多様な関わりを持つ関係人口、観光客などの交流人口を増やすために、地域の強みや魅力を活かして、活力ある地域づくりを推進する施策が求められています。

5 めざす姿

次のとおり、文化施策の振興による京都のめざす姿を定め、全ての府民が大切に受け継いできた京都の文化を将来にわたり継承し、育むとともに、文化に親しみ、学び、新たな文化の価値創造につながる施策に取り組むことで、文化の力で地域の活性化や産業振興・経済成長が持続的に図られ、誰もが心豊かに暮らせるあたたかな京都を実現するとともに、文化で世界に貢献していく京都をめざします。

- ①人と人との絆が大切にされ受け継がれた文化が将来にわたり継承される京都
- ②匠の技と進取の気質で革新を起こし、新たな価値が持続的に創造される京都
- ③文化が暮らしの基盤となり、豊かな人間性が育まれる京都
- ④京都の文化の力を活かし、府内各地で活力が生み出される京都

6 京都の文化の基軸（京都の強み）

めざす姿の実現に向けては、国内外の多くの人々を惹きつけている京都の文化を生み出す中で、培われ受け継がれてきた先人の思想や技などの京都の強みを活かしていくことが必要です。

(1) 「縁」を重んじる文化

京都は、古くから日本の中心を担っていたことで、国内外の多くの人々と交流しながら、自然との関わりの中で生業を営んできました。そこで様々な縁が生まれ、その上に暮らしが成り立っていました。また、政治の舞台となった京都では、繁栄の一方で戦火や明治維新等により何度も経済が衰退しましたが、その度に復興し、人々の縁はより強く結ばれました。

こうした歴史背景を持つ京都では、祇園祭など様々な年中行事の継承や番組小学校の創設など、京都の都市機能を支えてきた町衆の文化や、都があったことから全国から様々な特産物が集まるとともに、調理法や接待にも創意工夫がもたらされた食の文化、四季折々の自然環境や気候風土など、「場」との関わりの中で培われた行事や風習などの暮らしの文化など、縁を重んじる文化が息づいています。

縁を交わす（国内外からの誘客や新たな関係の創出）

文化資源を活かした観光施策や、移住・定住促進、企業や個人等の関係人口の創出、国内外との交流、海外販路開拓などを図るため、新たな関係を生み出す施策を推進します。

縁を紡ぐ（連携・交流の促進）

多様な主体の連携・交流の促進や府民が気軽に文化を体験できる機会の創出など、糸を紡ぐと強く長くなるよう、長く続く関係を生み出す施策を推進します。

縁を深める（人と人、モノとモノの関係強化）

職人同士や供給の上手と下手など、既に関係がある人と人やモノとモノとの関わりを強める施策を推進します。

(2) 「技」を極め、生み出す文化

京都には朝廷・公家、各宗派の総本山、茶道や華道などの家元が存在したことから、全国から腕利きの職人が集まり、絵画や染織物、工芸品など最高級の物が作られてきました。

伝統に裏付けされた高い技術力をもつ手工業者が、工程ごとに分業するというスタイルで京都の諸産業を担ってきましたが、近年では京都大学の iPS 細胞研究やけいはんな学研都市の脳科学研究など、世界をリードする技術研究開発も進んでおり、技を極め、生み出す文化が息づいています。

技を掛合わせる（新価値の創造）

多様な主体の共創による新たな価値の創造やイノベーションにより、新たな価値を創造する施策を推進します。

技を極める（技術の修練）

若手の作品展示会や技術習得に打ち込める環境づくりなど、アーティストや職人が自らの技術を高める施策を推進します。

技を魅せる（新技術の披露・発信）

染織物を活かす服飾のコンテストや先端技術を活用した新たな演出を加えた伝統芸能のステージなど、技術を活かす施策を推進します。

(3) 「心」を育み、つなぐ文化

京都では、古くから多くの社寺が建立され、様々な教えや信仰が育まれました。また、茶道、華道といった「道」を極める文化により、心の鍛錬や精神の豊かさを追求する土壌が形成されてきました。

現代においても学生のまちとして知られ、和食文化学やマンガ、幸福感、赤ちゃん学など特徴ある学術研究も行われており、よりよい社会の実現に貢献し続けており、心を育み、つなぐ文化が息づいています。

心を育む（文化に込められた心根の継承・教育）

茶道のおもてなしの心や、華道の自然を敬う心など、文化に込められた精神性を伝え育む施策を推進します。

心を動かす（文化を活かした社会参加の促進）

祭りへの参加や音楽、演劇などの舞台への出演など府民が文化活動に参加しやすい機会づくりや、文化活動を通して人と社会との関りをつくる施策を推進します。

心を癒す（文化を活かしたウェルビーイング）

博物館鑑賞や社寺拝観などの文化に親しむ機会を通して、精神面のケアにつながる施策を推進します。

(4) 「個」性ある地域文化

京都市を含む府内各地には、地域の歴史風土、生業等に育まれた魅力ある固有の文化が受け継がれるとともに、新たな文化が創造されており、地域と共生した個性ある文化が府内各地の魅力となっています。

個を探す（地域文化の掘り起こし）

文化の価値の再認識につながる取組やそのプロデュースなど、府内各地における知られていない文化やその価値を掘り起こす施策を推進します。

個を磨く（地域文化の磨き上げ）

掘り起こした文化などを観光資源やまちづくりの資源などとして活用するための体制づくりや体験機会の創出など、府内各地における活用に向けて文化を磨き上げる施策を推進します。

個を誇る（地域文化の活用）

磨き上げた文化を活かした観光や土産物、ご当地メニューの商品化など、府内各地における文化の価値や魅力を活かし、地域の活性化につなげる施策を推進します。

7 推進体制

文化が活きる京都の実現を推進するため、関係部局による庁内プラットフォームを組織し、現状や課題の共有等庁内連携を強め施策を推進します。

合わせて、アーティストやデザイナー、プロデューサー等による「京都文化デザインハブ」（仮称）を組織し、府とプロジェクトに適した文化人材が共創することで、より効果的に施策を推進します。

8 プロジェクト

文化が活きる京都の推進を総合的かつ効果的に実施するに当たり、4つのめざす姿ごとに施策を展開し、文化の力で地域の活性化や産業振興・経済成長が持続的に図られ、誰もが心豊かに暮らせるあたたかな京都を実現するとともに、文化で世界に貢献していく京都をめざします。

①人と人との絆が大切にされ受け継がれた文化が将来にわたり継承される京都

先人から受け継いできた様々な物や知恵、営み、風土などは、自他を尊重し、自然を畏敬し、物事を大切に作る心を育み、私たちの活動の基盤として暮らしの中や営みに根差すとともに、世界の人々が憧れる京都の魅力ともなっています。

そこで、京都の文化に誇りと愛着を持ち、将来にわたり継承される京都をめざすため、歴史的建造物や能・狂言、茶道、華道などの伝統文化、京料理等の食文化など、受け継がれてきた文化を次世代に継承する施策をプロジェクト化し推進します。

②匠の技と進取の気質で革新を起こし、新たな価値が持続的に創造される京都

京都では、古くから国内外との多様な交流により、新しい技術等を受容し自らの文化を更に発展させることを繰り返してきました。その中で育まれた京都の匠の技と進取の気質は、大学等の研究機関や、ベンチャーから世界で活躍する企業を生み出すとともに、現代日本の文化的経済的な基盤を担う源泉となっています。

そこで、今後もこうした役割を果たすべく、多様な文化交流や、伝統と先端技術との融合等により、新たな価値が創造される京都をめざすため、アート市場の拡大や漫画、アニ

メ、ゲームなどのメディア文化の振興、異分野交流による新たな文化の創造など、これからの時代に求められる新たな価値を創造する施策をプロジェクト化し推進します。

③文化が暮らしの基盤となり、豊かな人間性が育まれる京都

文化には、鑑賞や体験などを通して感性や創造性など豊かな人間性を育むとともに、地域の祭りや行事などへの参加を通してコミュニティを形成するなど、人の成長や社会生活を支える役割を担っています。

そこで、私たちは、文化が暮らしの基盤となり、豊かな人間性が育まれる京都をめざすため、文化活動によるコミュニティの形成や社会参加の促進、文化体験による健康増進など、文化を活かしたウェルビーイングの向上につなげる施策をプロジェクト化し推進します。

④京都の文化の力を活かし、府内各地で活力が生み出される京都

府内各地に受け継がれてきた多様で個性があふれる地域文化は、府内各地のふるさとの魅力を創り出しており、総じて京都の文化の力として国内外の人々を惹きつける強みともなっています。

そこで、私たちは、地域の企業や商工団体、教育機関、文化・社会教育団体、NPO等多様な主体が有機的に連携することで地域の絆を深め、地域の文化を掘り起こし磨き上げることにより、地域の活力を生み出す京都をめざすため、地域文化の拠点としてのミュージアムのネットワークの拡大や更なる機能強化、地域に根差した文化活動の促進など、地域文化を活かした地域の活性化につなげる施策をプロジェクト化し推進します。

<府内各地の個性ある文化>

- ▶ 丹後地域では、古くから海洋交通による大陸との交流が活発に行われ、舟屋や海の幸、海にまつわる祭りや行事、伝説などが伝わっています。
- ▶ 中丹地域では、丹波山地と日本海に囲まれ、豊かな自然を背景に山岳寺院や祭礼、芸能、鬼退治伝説など特色ある文化が伝わっています。
- ▶ 南丹地域では、豊かな自然からもたらされる山の幸や畜産など京の台所を支える食文化や建材を供給する林業など森の文化が伝わっています。
- ▶ 山城地域では、奈良時代の平城京と平安時代の平安京の両文化の影響を受けながら発展し、多くの社寺や街道とともに宇治茶や祭りなど暮らしに息づく豊かな文化が伝わっています。

9 数値目標

文化に関わった府民の割合や文化を身近に感じる府民の割合など、府民意識調査等による目標を設定予定です。